

ラオスの こども通信

71号
2018年2月発行

発行：(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども

- 折り紙が、子どもたちの世界を広げる ▶ p.1
- はじめる・つながる・つくりだす [2017.8-2018.1] ▶ p.3
- 「ラオスのこども」の仲間たち ▶ p.4
- メコンのほとり「継」 ▶ p.4



*写真の説明はp.4をご覧ください。

折り紙が、子どもたちの世界を広げる

昼休み、近くの学校から子どもたちがヴィエンチャン事務所の図書室にやって来ます。思い思いに本を手にして読み始める子どもたち。女の子が、「チャンシーお姉さん、今日はどの折り紙?」とたずねます。



ラオス事務所スタッフのチャンシーと子どもたち

「そうね～、今日は自分でやりたいものを選んでみる?」と、チャンシー。早速、何人かの子どもたちが折り紙の本を開いて、折ってみたい作品に取り掛かります。「折り紙」は、図書室が子どもたち向けに行っているアクティビティの中でも人気があります。図書室担当のチャンシーは経験豊かなスタッフ。日本の支援者の方々から習って以来、大好きになり、今では、ラオスで人気のある立体折り紙もつくることができますし、日本語で書かれた本でも、折り方を見ただけで折ることができます。子どもたちは、そんなチャンシーを頼りにしています。

折り紙を授業に取り入れて、子どもと先生が近くなる

「ラオスのこども」は、『ラオス折り紙ハンドブック』を2014年に出版しました。すると、学校の先生たちから、「折り方を教えてほしい」という声が寄せられ、チャンシーが講師となり「折り紙ワークショップ」を2015年8月に開催しました。

ノンボントタイ小学校のクートキアン先生もワークショップの参加者でした。全日程3日間、一番早く会場にやってきた熱心な先生です。

「もともと作ったことはあったけれど、ワークショップで、いろいろな作品があることを知ったのがよかったです。いっしょに参加した先生たちと、学校の授業に取り入れたいね、と話しました」と感想を聞かせてくださいました。



クートキアン先生の課外活動(ノンボントタイ小学校)

クートキアン先生は4年生の担任。週2回ある「課外活動」に折り紙を取り入れ、さらに毎週水曜日の休み時間にも教えています。最初は、先生が呼びかけて教えました。今では子どもたちの方から先生に「教えて!」と言ってくるそうです。

「子どもたちの集中力を養う教材です。手順を踏んで物事を進められるようになり、考える力をつけることもできます。以前は授業中にあちこち動き回っていた子も、折り紙を取り入れてからは、それがなくなり、ちゃんと座って授業を受けられるようになりました」

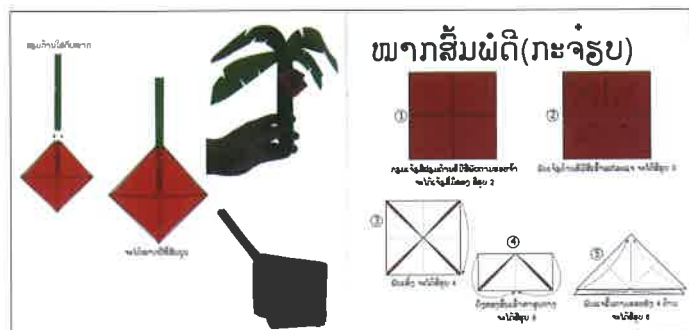
あまり教材がそろわないラオスの学校にあって、大きな力を発揮している。そのことに私たちはあらためて気づかされます。

「ラオスの学校は、先生は黒板の前に立って説明するばかり。でも、これで先生と子どもたちの距離がぐっと近づくのよ」とチャンシーは言います。

キャンディ、鳥、星、箱、ハート 作りたいもの、いっぱい

子どもたちにインタビューすると、「楽しくて、時間がたつのを忘れる」、「作品ができ上がったときがうれしい」、「少しずつできていくのを見ているとわくわくする」など、たくさんの感想が返ってきました。

一人の生徒は、「クートキアン先生が教えてくれる折り紙が一番楽しみ」と目を輝かせます。好きなのは、キャンディ、鳥、星、箱、ハート、鉛筆など次々と出てきます。「お手本を見なくても折れるものもあるよ」とうれしそうに教えてくれる子もいます。確実に子どもたちの世界を豊かにしているといえます。



『ラオス折り紙ハンドブック』バナナの花の折り方

そんな折り紙をさらに広げるため、「ラオスのこども」は、より多くの先生が学べるよう、新しい地域での「折り紙ワークショップ」開催を計画しています。

先生たちに好評、「折り紙ワークショップ」

「ラオスのこども」は、『ラオス折り紙ハンドブック』を2014年に出版し、ラオスの学校図書室と子どもたちへ折り紙の紹介と普及に努めてきました。その『ラオス折り紙ハンドブック』を教材として、2015年8月と2016年10月には小学校の教員や「子どもセンター」(児童館)のスタッフ向けに「折り紙ワークショップ」を開催しました。ワークショップでは、折り方の基礎だけでなく授業や活動での活かし方も互いに学び合い、参加者や関係者に好評の企画となりました。現場からの強い要望もあり、今回「折り紙ワークショップ」をヴィエンチャン都、ボリカムサイ県、ルアンパバーン県で開催します。



前回ヴィエンチャンで行われたワークショップ (2015年 ラオス事務所)

「折り紙ワークショップ」を 応援してください！

小学校の先生と子どもセンターのスタッフ向けに3か所、計約45人が集まって、3日間開催します。

2018年2月末まで冬募金を受け付け中です。目標75万円！1月15日までに合計319,400円ご寄付いただきました。心から感謝申し上げます。引き続きご協力をお願い致します。

はじめる・つながる・つ

<図書室>

学校から地域へ、広がる読書の間

2014年2月に開始した「学校図書室の地域への展開事業」(JICA 草の根技術協力事業)が2018年1月末に終了します。

「学校図書室の地域への展開事業」

ヴィエンチャン県とルアンナムター県の2県の6郡にある16か所の学校(小学校11校、中等学校5校)に、学校図書室を開設し、さらに、それぞれの分室として16の地域文庫の開設を支援した。地域文庫の運営は村人など土地の人にゆだねた。それは、人々にとって、当会にとって、ラオス政府にとって、初めてのチャレンジだった。

事業終了にあたり、開設した地域16か所をすべて回り、終了時の評価をおこないました。この事業は、学校図書室に加えて、村の中に文庫を開設することで、子どもたちの読書の機会の充実を図ることが目的です。それぞれの図書室はどんな状態なのか、運営の記録を確認し、担当者や校長、村長、そして利用者である子どもたちと村人たち、総勢427人にインタビューしました。



図書室担当の村人に運営状況を聞くスタッフのバンロップ

聞き取りをまとめた結果、学校図書室も地域文庫も定期的に関わり、それぞれが目標としていたオープン日数を大きく上回っていることが確認できました。学校図書室は週4日以上が目標のところ、5日以上以上の学校が81%あり、地域文庫は月1日以上以上の目標に対して、月4日以上開放している文庫が81%もありました！地域文庫の開設は村の大人たちにも読書の機会を提供しました。利用人数も予想を上回って嬉しい悲鳴があがるほど。学校図書室と地域文庫の両方を利用できるようになれば子どもたちの利用の機会は増えるというねらいが達成できたのです。

村の図書室を運営、前例のない挑戦に成功

2018年1月8日～9日、国立図書館、国、県、郡の教育担当者22人が各地域・部署から集まり、評価会議を行いました。上に挙げたような成果を確認すると、参加者からは、どの学校が良かったのかを知りたい、学校別のデータも見たいとの声。そこで、集計元のデータを見せると、今度はそのグラフを読み取るのに四苦八苦する場面も。それぞれが自分の管轄する地域の良い事例を報告に反映して欲しいと、議論がヒートアップする場面があり、それほど、多くの人が積極的に参加する会議となりました。

「村の図書室をつくる」という、ラオスで前例のないことへの挑戦だったため、まずスタートさせることに苦労しましたが、今後は、地域の参加や継続性をどう実現していくかが課題です。運営を担う「村教育開発委員会」との緊密な連携がさらに必要となってきます。



国立図書館、国、県、郡の教育担当者22人が集まったの事業終了時評価会議（ヴィエンチャン）

この評価は、調査の実施はもちろん、データ入力、そして会議の前日には、遅くまで配付資料の確認や印刷をしたり、汚れていた会場の清掃をしたり、司会進行の練習をしたりと、ラオス事務所全員で取り組みました。事業は子どもたちに読書の機会を増やし、子ども自身の成長の機会を提供するとともに、スタッフたちも大いに成長する機会となりました。

「ラオスのこども夏募金2017」報告とお礼

2017年7月から9月にかけて、夏募金「村の文庫に1,600冊の本を届けよう」を実施しました。64人のみなさんから627,870円の寄付をいただきました。心より御礼申し上げます。

また、facebookへの「いいね!」や「シェア」など広報に協力いただいたみなさん、ありがとうございます。

「学校図書室の地域への展開事業」で開設・運営支援をした16か所の地域文庫（村の文庫）に、それぞれ約70冊届けることができます。地域文庫の維持と充実のために大切に使います。

<イベント>

グローバルフェスタ よこはま国際フェスタ

ラオスの現状と会の活動を広く知っていただくため、日本最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタ JAPAN 2017」(9月30日・10月1日)と、「よこはま国際フェスタ2017」(10月8日・9日)に出展しました。天候に恵まれ、食販ブースで販売したラオス風やきとりとビアラオ(ラオスビール)は大盛況! 両イベントあわせて、やきとり2,068本、ビール596本を販売しました。



ナンバー(タイならナンプラー)で味付けした焼き鳥が大人気(グローバルフェスタ)

今回は、初の試みとして「民族衣装着付け体験」による広報・販促への協力を呼びかけました。この企画は、民族衣装を着た写真をInstagramに投稿してくれた方に「やきとり一本無料券」を配布するというものです。中学生から大学生を中心に合計27人に協力いただきました。

イベントの収益金は、ラオスの子どもたちの教育支援活動のために大切にに使わせていただきます。ご来場いただいた方々、ボランティアのみなさん、ありがとうございました。

(伊藤夏実/インターン)



カラフルな民族衣装でインスタ映え!(よこはま国際フェスタ)

2017年度ラオスのこども通常総会 (9月16日 ライフコミュニティ西馬込)

年に一度、会に関わってくださる方々が顔をあわせる貴重な機会。当日は、2016年より実施している「学校図書室の地域への展開事業」で開設・運営支援を行ってきた地域文庫や、当会がラオスで出版している絵本や紙芝居について活発な議論が行われました。第二部では、「ラオス語絵本プロジェクト」と「NPOゲーム」を行い、参加者間の交流が深まる機会にもなりました。



NPOゲーム。盛り上がり、ためになる

「ラオスのこども」の仲間たち

日・ラオ友好親善に寄与し、表彰

チャンタソン インタヴォン/「ラオスのこども」代表

チャンタソンが在ラオス日本大使館から表彰されました。日本とラオスの相互理解、友好親善に寄与した功績に対する表彰です。「ラオスのこども」の活動はもとより、「ホアイホン職業訓練センター」そして「ホアンカオ保育園・幼稚園・小学校」など、長年幅広く活動をしてきたことへの功績とのことです。



12月7日、大使公邸での天皇誕生日レセプションでチャンタソンを含め4人が表彰されました。スピーチでは、会場に来ていた日本人とラオス人の双方に伝えたい思いがあふれてしまい、充分に話ができなかったと本人談。

当会の活動紹介ブースを特設し、来場者の方たちは、日本のNGOの現地に即した活動を知るよい機会になったと好評でした。

チャンタソンからみなさまへ

感謝状の授受が在ラオス日本大使館で行われたのは、初めてだそうです。初回に頂けるのは大変光栄です。これも、日本やラオスの支援者、ボランティア、スタッフの皆さんのおかげと、日本とラオスの家族の支援もあって今回の受賞になったと思います。本当にありがとうございます。

メコンのほitori継

織物で表現される模様

手織りによって生み出される緻密で、ときには力強く奥深い表情の様々な模様。これがラオスの織物に魅了されてしまうひとつの由縁だと思う。

中でも基本の平織りに緯糸を足すことで模様を織り上げる浮織・縫取織の技術はお見事。シンプルな構造の機織りでここまで細かく多様なモチーフを織り上げてしまうこの技術がラオスの織物の特徴なのではないだろうか。

表現される模様については主に、彼らの生活環境や習慣から生まれるものが多い。身近にいる動物たち、植物や風景、信仰の対象となるものなどがあり、さらに織り上げる人の想像力が加わり様々な表現となる。

ホアイホン職業訓練センターでは、先祖代々伝わってきた織物を継承していきこうと、新たな世代がそれを引き継ぐ形で新しい一枚を織り上げている。センター内に併設されているショップでは実際に手に取り織物を見ることができのだが、織りあがってきた織物を見てみるとひとつの題材をとっていても多彩多様、見ていて面白い。例えばメコン川を象徴する水神「ナーガ」(龍のモチーフ)。ナーガが尾を絡ませていたり、頭を付き合わせていたり、抱き合っていたり。ナーガのモチーフは一見ハートのように見えるものも多く、愛情を表現しているのかな?と私も想像してみる。その他には鳥(クジャク、白鳥と様々)や想像上の動物も多い。

布が語るはるか遠い昔の人々が馳せた思いを私たちに受け取り想像を膨らませるのも楽しいのではないのでしょうか? ラオスの織物の中にお気に入りの模様を見つけたら、それを探す旅をしてみるのも面白いかもしれないですね。

富田紘子さん/ホアイホン職業訓練センター職員

表紙の写真

折り紙というと日本文化の紹介、と思う人も少なくないかもしれませんが。鶴や兜など。今や、ラオスの学校に定着しつつあり、蓮の実をはじめ花や鳥など子どもたちの身の回りのもの、暮らしの中にあるものもつくられています。そして、ご覧の通り、何よりも子どもたちの心をひきつけています。先生たちは、これは使える!と着目したのです。

特定非営利活動法人ラオスのこども

組織の理念「ラオスのこども」は、公正で平和な社会づくりに貢献することを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しながら、読書に親しむ環境をつくります。

ラオスのこども通信 71号

2018年2月発行 編集人: 森透
発行: Action with Lao Children / DeknoyLao
(認定) 特定非営利活動法人 ラオスのこども
〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303
TEL/FAX 03-3755-1603
e-mail: alctk@deknoylao.net
http://deknoylao.net
都営地下鉄浅草線 西馬込 南口下車 徒歩7分
郵便振替00140-6-462494



様々なナーガ模様

鳥、カエル、人(スピリット)、蝶々、馬

いずれもホアイホン職業訓練センターで織られました。

ラオスの織物展予定<東京・京都>

- エスノースギャラリー@谷中 2月20日(火)~3月4日(日)
 - 銀座教会 3月20日(火)~3月25日(日)
 - 京都織物展 4月25日(水)~4月30日(月)
- お気に入りの模様が織られている一枚をぜひ探しにいらしてください。

ホアイホン職業訓練センター(ヴィエンチャン中心部から約7km)
見学・体験のお問い合わせは、こちら
Tel: (856)-21-56-0006 / e-mail: houeyhong98@gmail.com
webサイト内にご予約フォーム 「ホアイホン」で[検索]